

## 古文の特徴をつかむ

〔確認〕

## 解答

作者の清少納言は、一条天皇の中宮定子（ちゅうぐうていし）に女房として仕えました。父は歌人として有名な清原元輔（きよはらのもとすけ）で、恵まれた文学的環境に育ちました。

『枕草子』は、作者が中宮定子に仕えていたときに、見聞きしたことや体験したことについて記した随筆（ずいひつ）です。作者のものの見方・感じ方に触れましょう。

やってみよう

〔解答・解説〕

(1)

おどり

はい

(2)

かわいらしい

「うつくし」は、「かわいらしい、愛らしい」の意味で、「小さいものをかわいい」と鑑賞（かんしょう）する気持ちを表します。現在使われている「美しい」という意味ができたのは、鎌倉時代以降です。

(3)

イ

・小さい塵（ちり）があったのを目ざとく見つけたのは、「二、三歳（さい）くらい」の幼児です。

(4)

六

・作者が「かわいらしいもの」の例として挙げているものは、次の六つです。本文中で確認してみましょう。

- ・ 瓜にかいた幼児の顔
- ・ すぐめの子がやってくる様子
- ・ 幼児がとも小さい塵を拾って見せる様子
- ・ 幼児が首をかして何かを見ている様子
- ・ 殿上童（てんじょうわらわ）がりっぱな着物を着せられて歩いている様子
- ・ 幼児が遊んでいるうちに寝入ってしまう様子

(5)

清少納言

・ 下は、「三大随筆」と呼ばれている作品の作者と成立年代をまとめました。

作品	作者	成立年代
方丈記 （ほうじょうき）	鴨長明 （かものみちのぶ）	鎌倉時代
徒然草 （つれづれぐさ）	兼好法師 （けんこうぼうし）	鎌倉時代
枕草子 （まくらのはな）	清少納言 （せいしょうなごん）	平安時代